

～海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」～

**海の公園のアマモのブルーカーボン(12.3 t-CO₂)を
カーボン・オフセット可能なクレジットとして初めて認証します！**

横浜ブルーカーボン^{※1}・オフセット制度^{※2}では、これまでブルーリソース^{※3}によるCO₂削減量をクレジットとして認証してきました。昨今、ブルーカーボン^{※4}をクレジットとして認証する環境が整ってきたことから、海の公園の公園管理区域内に生息するアマモによるブルーカーボン(12.3 t-CO₂)をクレジットとして認証します。

ブルーカーボンのクレジット認証は初めての取組です。

【アマモ場が持つ豊かな海づくりの効果】

本市では、アマモ場が持つCO₂を吸収し固定する効果、水質を改善する効果、生物多様性の増進に貢献する効果に着目し、2015年度からアマモ場の調査・啓発活動を行ってきました。



アマモ場が持つ豊かな海づくりの効果

【海の公園について】

海の公園は、1988年に、金沢地先埋立事業の一環として整備された横浜で唯一の海水浴場をもつ公園です。自然に見える砂浜ですが、千葉県から運んだ砂を使用しており、横浜市により人工的に造成されたものです。現在は、アマモのほかカニやアサリなど多くの生き物が生息しています。

2019年6月時点の公園管理区域内に生息するアマモ密生域の面積は77,804m²で、東京ドーム約1.7個分です。



海の公園 アマモ密生域

【アマモ場によるCO₂吸収・固定量の算出】

これまでは、海外ファンド等を活用した調査によって推計した“横浜の海に特化した独自の係数”を用いて海草・海藻によるCO₂吸収・固定量を算定してきました。

クレジットの認証においては、IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change (国連気候変動に関する政府間パネル) の略。) により Tier1 として示された世界共通の係数を用いてCO₂吸収・固定量を算定します。

【温暖化対策としてのブルーカーボン】

ブルーカーボンの一般への認知度はまだあまり高くありませんが、温暖化対策の新たな吸収源としてのブルーカーボンへの期待が大きくなっています。

日本国内では、国土交通省が主催する「地球温暖化防止に貢献するブルーカーボンの役割に関する検討会」においてブルーカーボンを温暖化対策の施策とするための検討が進められています。

【※1 横浜ブルーカーボンとは？】

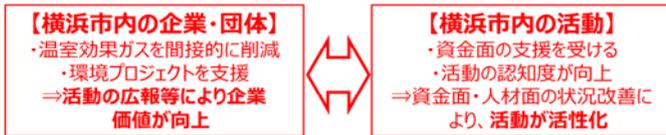
横浜ブルーカーボン事業では、ブルーリソース・ブルーカーボンによる独自のカーボン・オフセット制度の運用や環境教育・啓発活動によって親しみやすい海づくりに市民の関心を集め、市民や団体の豊かな海を守る活動を応援していきます。



横浜ブルーカーボンの3事業領域

【※2 横浜ブルーカーボン・オフセット制度とは？】

カーボン・オフセットとは、自らのCO₂等の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を、他の場所での排出削減、吸収活動に投資することにより相殺することをいいます。これまでの横浜ブルーカーボン・オフセット制度でのクレジット創出は、わかめの地産地消、海水ヒートポンプ導入、LNG燃料タグボート導入、ハイブリッドタグボート導入により行ってきました。またオフセットは、トリアスロン大会等のスポーツ・イベントや温暖化対策の実施に強い熱意を持つ事業者の事業活動に対して実施されており、平成30年度には164.4 t-CO₂のカーボン・オフセットが実現しました。



カーボン・オフセット概念図

横浜市 漁業協同組合 わかめの地産地消 20.5 t-CO ₂	㈱横浜八景島 わかめの地産地消 海水ヒートポンプ導入 1.5 t-CO ₂	NPO法人 海辺づくり研究会 わかめの地産地消 1.0 t-CO ₂	㈱ウイングマタイムサービス LNG燃料タグボート導入 ハイブリッドタグボート導入 141.4 t-CO ₂
◆大会運営でのエネルギー利用 ◆出場選手・スタッフの移動 ◆事業に伴うエネルギー利用 等			
削減クレジット購入 カーボン・オフセット			164.4 t-CO₂ のカーボン・オフセット
世界トリアスロンの横浜大会 33.8 t-CO ₂	石井造園㈱ 10.0 t-CO ₂	㈱丸井グループ 1.0 t-CO ₂	
横浜サイトトリアスロン大会 5.5 t-CO ₂	㈱大川印刷 1.0 t-CO ₂	㈱ダイチ 18.2 t-CO ₂	
みなとみらいスマートフェスティバル 2.0 t-CO ₂	㈱横浜フジエス・ツラフ (横浜FC) 3.6 t-CO ₂	横浜消防器㈱ 2.3 t-CO ₂	
竹中・西松建設共同企業体 86.0 t-CO ₂		㈱湘南貿易 1.0 t-CO ₂	

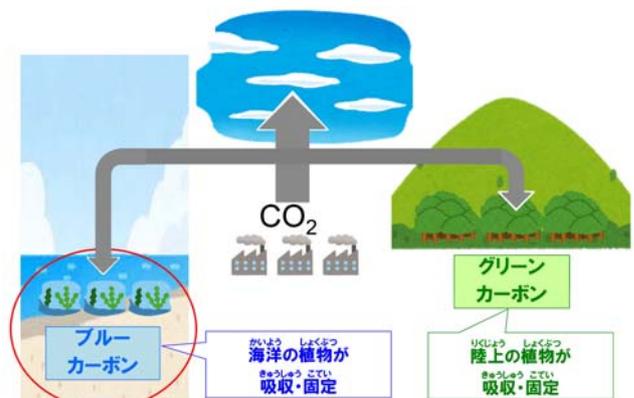
カーボン・オフセット実施事例 (平成30年度実績)

【※3 ブルーリソースとは？】

海を利用した取組による省エネ効果・CO₂排出量削減効果をブルーリソースと呼んでいます。これは横浜市独自の考え方によるものです。

【※4 ブルーカーボンとは？】

森林が吸収・固定するCO₂をグリーンカーボンといいます。同様に、海洋生態系が吸収・固定するCO₂をブルーカーボンといいます。



ブルーカーボン、グリーンカーボン

お問合せ先
温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長 岡崎 修司 Tel 045-671-2636